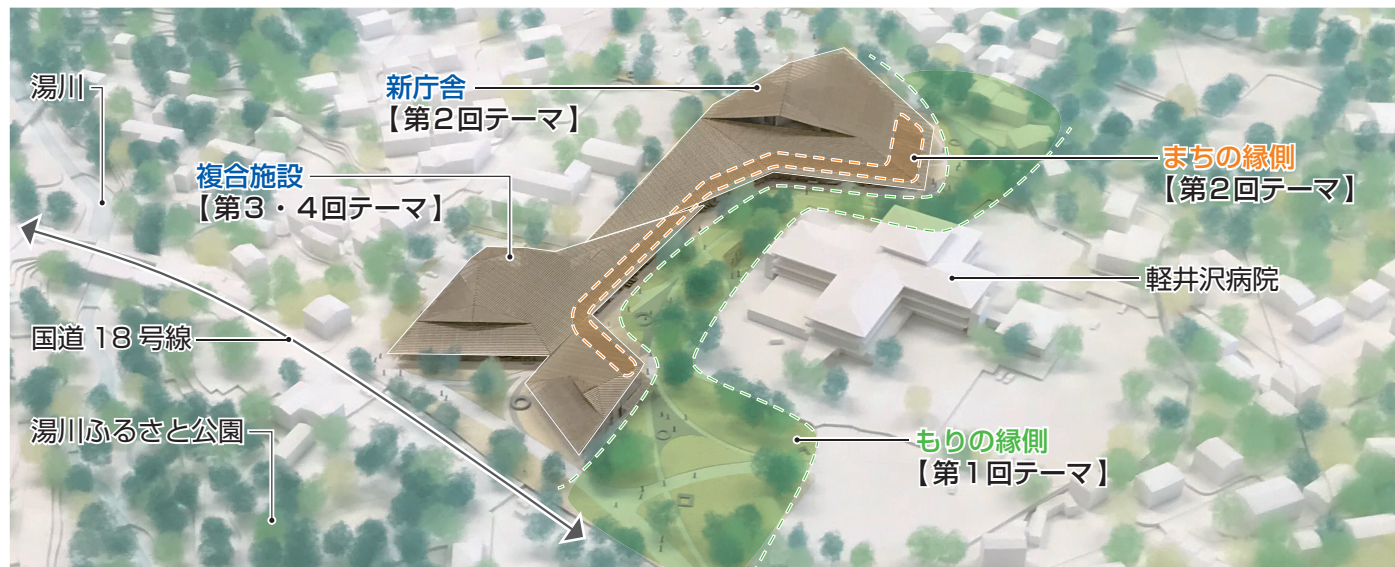


住民ワークショップ

1. ワークショップの概要

国際親善文化観光都市軽井沢にふさわしい100年後の暮らしの景（風景・生活・コミュニティ）をつくる「森の新庁舎」・「複合施設」について、町民・別荘所有者の皆様と一緒に意見やアイデアを出し合い、語り合うためのワークショップを令和4年6月に開催しました。計4回開催したワークショップには、町民・別荘をお持ちの方を含め、12歳から78歳までの延べ113名の方々にご参加いただきました。



2. ワークショップの開催日時・テーマについて

第1回 令和4年6月3日（金）18：00～20：30

軽井沢の自然を活かした「もりの縁側」について考えよう

- ・軽井沢の環境を考えよう
- ・「もりの縁側」について考えよう

第2回 令和4年6月4日（土）14：00～16：30

「まちの縁側」を中心とした**未来の庁舎**について考えよう

- ・軽井沢の伝統・文化について考えよう
- ・「まちの縁側」の活用について考えよう

第3回 令和4年6月11日（土）10：00～12：30

複合施設について考えよう（**新しい複合施設**の姿を考える他）

- ・現在の中央公民館の使い方を見直そう
- ・新しくつくる複合施設の姿を考えよう

第4回 令和4年6月11日（土）14：00～16：30

複合施設について考えよう（**避難拠点**としての複合施設）

- ・避難拠点としての複合施設について考えよう

3. ワークショップの様子

軽井沢町中央公民館にてワークショップを開催しました。冒頭に施設計画の概要説明を設計者から、各回のテーマに関連するお話を講師の方々からして頂いた後、参加者の皆様には5～7名の小グループに分かれたうえで、それぞれのテーマに基づいて個人の意見をワークシートにまとめて頂きました。その後、グループ内で個人の意見を発表し、さらにグループ内でディスカッションを行い、最後にグループとしての意見を模造紙にまとめ全体で発表して頂きました。



4. ワークショップのまとめ

今回は、創造的に物事を考え、アイデアを引き出すためのツールとして、ビジュアルカードを用いたワークショップを採用しました。慣れない作業に始めは皆様難しい部分もあったかと思いますが、イメージを膨らませ、多くのキーワードを紡ぎ出して頂きました。

第1回目では『多様性』、第2回目では『笑顔』、第3回目では『軽井沢DNA』、第4回目では、『共助』と“人”に関するキーワードが多く出されていました。DX化が進んでも、最後は『人が大切』ということで、長く軽井沢にお住まいの方、別荘を持ちの方、そして、新しく住まう方など、多様な方々が暮らす軽井沢らしいキーワードが生まれた印象に残るワークショップとなりました。

第1回目のワークショップに参加して頂いた町内中学生から、軽井沢の歴史についてぜひ発表したいとメッセージを頂き、第3回目のワークショップで急遽『軽井沢の歴史から見た新庁舎』についてプレゼンテーションを行って頂くことになりました。誰かの意見を聞くことで刺激を受け、自分自身の持っている知識を人に共有することで、それぞれの方々が持っている知識や経験の連鎖が広がっていく様子を実感できるワークショップとなったのではないかと思います。

4回に渡り開催したワークショップを通じ、新しいものにも柔軟に対応できる自由度の高い新庁舎・複合施設をつくることが重要であること。そのために必要な機能やスペースなどハード面の他、運用の方法や使い方のルール、人が集まるためのコンテンツづくりなどソフト面に関しても様々なご意見を頂戴しました。これらの意見につきましては、基本設計の中でしっかりと議論し、軽井沢に住まう方々の『多様性』を活かせるような『笑顔が生まれる』新庁舎・複合施設を計画して参りたいと考えております。ご参加頂きました皆様には、貴重なご意見を頂戴しましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

第1回「もりの縁側」について考えよう

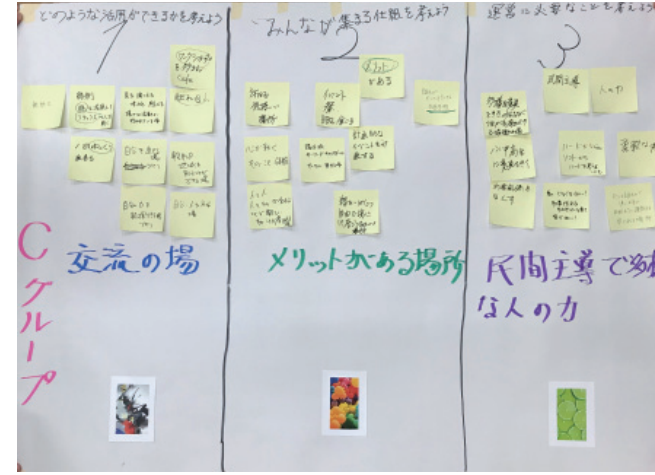
A グループ



B グループ



C グループ



ワークショップの様子



どのような活用ができるか考えよう

- ・集まって⇒ひろく
- ・集まっちゃってる
- ・しぜんに
- ・にごつても集まってる
- ・境がない
- + 自然に集まってくるし、楽しい場所だと思える活用方法がいろいろあるんじゃないか

- ・自然があふれている
- ・森の中感
- ・森としてみりよくてきな森の縁側
- ・森にする
- ・地元の子どもが学ぶ (軽井沢の昔の子どものように)
- ・プチ植物園
- ・美しい縁側
- ・軽井沢の高山植物の保全もする
- ・野の花を
- ・ユウスゲ
- ・軽井沢らしく
- ・湯川とつながった散歩道 ⇒ふるさと公園までつなぐ
- ・心地よく散歩できる場
- ・心地の良い空間
- ・ランドマークのような活用
- ・ポーっとする
- ・ヨガ・体操
- ・自分たちのプロジェクトをもちよる場

- ～交流の場～
- ・無限大
- ・縁側 緑を活用してリラックス ⇒心を開く
- ・見る・聞こえる・味わえる・感じる
- ・様々な活動が行われている場
- ・ワークショップをたくさん・cafe
- ・触れ合い
- ・1日ゆっくり出来る
- ・自分を出せる場づくり
- ・自分の力を発揮できる場づくり
- ・自分・人を知れる場
- ・軽井沢・地域を知ることができる場

みんなが集まる仕組みを考えよう

- ・交わる ハブ
- ・安心できる人
- ・いろんなテーマをかかげる
- ・個性を出す
- + バラバラでもいろいろなことができる人がいる

- ・町のことを知れる
- ・常にイベントが設定されている
- ・多様性
- ・少数なものもある、楽しむ
- ・楽しい場所
- ・音楽が流れている
- ・道具を置く
- ・森の中の自販機 (環境的にはよくないけど)
- + キッチンカーでビールをのみたい
- ・美の散歩道
- ・お祭り
- ・野外 MTG スペース
- ・自由に使えるスペース
- ・井戸端会議とか
- ・BBQ スペース
- ・キッチンカー
- ・会話がはずむ

- ～メリットがある場所～
- ・メリットがある
- ・休日にも気持ちいい場所
- ・イベント
- ・祭
- ・BBQ
- ・食べる
- ・心が動くもの・こと・体験
- ・誰もがそこへ行ける
- ・交通手段がある
- ・掲示板
- ・キーワードキャッチボール
- ・サークル
- ・集まる場
- ・計画的なイベントを計画すること
- ・人と人、人とのものが交わることで新しいもの・ことが産まれる場
- ・緑をいかしつつ自由で安心して居心地のいい場所

運営に必要なことを考えよう

- ・まとまり&自由のバランス
- ・キャッチする 網の目のように
- ・いろんな目
- ・やわらかいふんいき
- + いろいろな情報一つ一つに対処できる

- ・さわやか
- ・軽井沢のことを学べる場
- ・挨拶を必ずする場所
- ・縁側の番人がいる
- ・共通のルール
- ・無理をしない
- ・つくりすぎないあいまいさ
- ・続ける
- ・都会とは違った「らしさ」が必要
- ・アダプト
- ・楽しんで場を作れる人を募る

- ～民間主導で多様な人の力～
- + 年齢人種など様々な人たちが混ざり合って多様な人たちの力を使う
- ・多様な意見をきき、みんながつながる
- ・参加できる協働の場
- ・民間主導
- ・人の力
- ・小中高生に意見をきく
- ・ハードからでなくソフトからハードを考えることも
- ・柔軟な考え
- ・利害関係をなくす
- ・動 ぐるぐる Go - !
- ・多様なあるそれぞれを育て 皆で Go - !
- ・そこは誰もが使いやすい 自発的に運営できる 愛される場所

講師のお話 テーマ：軽井沢の植物を知ろう

講師：軽井沢町植物園 新井勝利 園長

浅間山の噴火の影響、林にみられる植物、草原や湿地に見られる植物、植物の分布から見た軽井沢の植物や特色についてお話して頂きました。



1. 浅間山の噴火による影響

- 六里ヶ原一帯 標高1400～1500m 火山の泥流により完全に破壊された地域
- 高山植物が生育 コメススキ、オンタデ、ミネヤナギ、ガンゴウラン、ミネズオウ、ツガザクラ、クロマメノキ、コケモモなど
- 本州中部では標高2500m以上の高山帯に見られるが、浅間山では、火山活動と寒冷な気候条件により例外的に見られる。



■ クロマメノキ

2. 林に見られる植物




■ エゾオヤマハコバ

■ フシグロセンノウ

第1回「もりの縁側」について考えよう

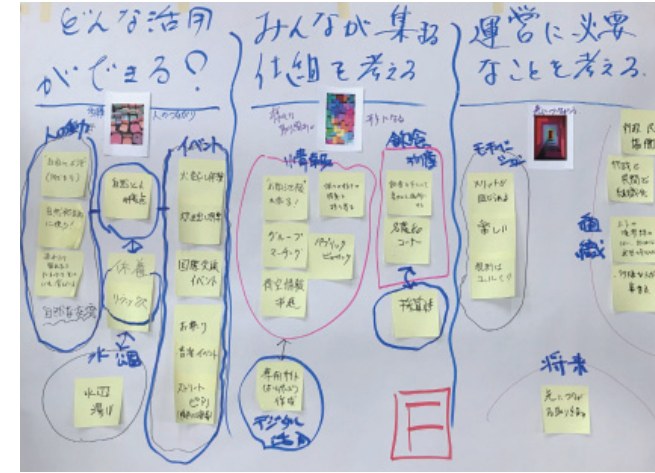
Dグループ



Eグループ



Fグループ



ワークショップの様子



どのような活用ができるか考えよう

- 憩いの場
- 休める場
- 誰でも気軽に
- 出会い
- コミュニケーション
- 誰でも気軽に
- わざわざ来たくない
- +つながりあいや癒しの場

+新しい箱モノをつくるのではなく、今あるものをメンテしながら丁寧に使いましょう。もしくは、今ある森をしっかり整備していきましょう。

- 様々な人がリーダーになれる町、活かす町・川あそび
- 自転車・馬で移動
- 町中をつなげる（水辺 / 農道）
- 民間ではできない投資をする
- 森の学舎 ネイチャーセンター
- 色々な人が集まって協調→輝く
- 軽井沢の緑をこれ以上壊すのをやめましょう
あるものをしっかり守りましょう！
- 庁舎に関連するモリの縁側は絶対に不要です。
身の丈にあったシンプルなものが良い（安価で機能性が高い）
- 屋根付き広場でイベント
- きれいとと思う
- 自然から知る

～多様な人のつながり～

- 人の動き**
- 自由にとろろ（何でも可）
 - 自然発生的に使う
 - 流れたり、留まったり、たまったり、そしていつも澄んでいる
 - 自然発生的な交流

- イベント**
- 火起こしイベント
 - 焼き出し訓練
 - 国際交流イベント
 - お祭り
 - 音楽イベント
 - ストリートピアノ（勝手に演奏）

+湯川をいかに活用していくかが重要

- 水・公園**
- 自然と人の接点
 - 休養 リラックス
 - 水辺、湯川

みんなが集まる仕組みを考えよう

- マルシェ ・バザー
- 子どものためのイベント
- ストリートライブ
- 青空図書館
- 中高生下校ドリンク
- バスの時間
- ストリートピアノ
- 誰でもアート（ゴミアートなど）

+造形表現ができる場
町のバスの時間がもう少し利便性があつたら良いのではないかと

+順番の考え方が間違っている。建てた箱モノを活用するから箱モノの話になる。人が集まって滞在するということを中心に考えることが重要。人が集まる時には機能的価値では集まらない。情緒的価値が必要。楽しい人がいる、おいしい料理が食べられる、楽しくパーティーができるというコンテンツが重要

- コンテンツ一択
- キレイな場所 行きやすい
- アートという“問い”をしかける
- 学びの場（学校が町のなかに）
- 湯川ふるさと公園と結び
- 各々が楽しいと感じるものがあれば集まる（自然と集う）
- 人を活かす

～様々な取り組みが形になる～

- 情報**
- “お知らせ板”を作る！
 - グループマッチング
 - 青空情報市庭
 - 個々の好きや得意を持ち寄る
 - パブリックビューイング

- 飲食物産**
- 飲食を手にして集まれる場所にする
 - 名産品コーナー
 - 採算性

デジタル活用

- 専用サイト（ホームページ）の作成

運営に必要なことを考えよう

- 多様性の尊重
- 町民が主体
- 若い人のアイデア
- 市民グループの連携
- 新旧別荘民が協働
- +行政が主体にならず町民が主体となって進めたり考えていける場

+運営と人が集まるということが繋がって、はじめて、箱をどうやって活用するかを考えれば良い。ここまでできれば、あとは学ぶ場所をつくる、アクセスする交通を考える、屋根付きで広場でイベントができる場所をつくるというところに繋がっていく。一番大事なのは、どうやって人が集まって滞在してくれるかを中心に考えること

- 民間にまかせる
- 中高生たちと考える
- 町中の教育機関がひとつになる
- 作るものを作る・守るものは守る
- 予算と実行力 行政の大事な仕事（町民の理解を得る努力）
- ボラでなくお仕事に
- まっすぐ？
- シンプル？
- つながりを大事に

～先につながる～

- モチベーション**
- メリットが感じられる
 - 楽しい
 - 規制はユルく！！

- 組織**
- 行政・民間協働
 - 行政と民間で組織化
 - 上下や境界線のない自由な発想を受け入れる
 - 多様な人が集まる

将来

- 先につながる取り組み



設計者感想

山下設計 窪田

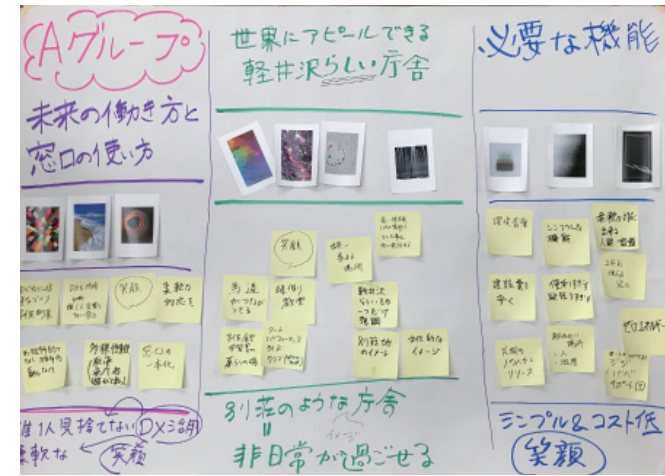
今回のワークショップの中で多く登場した言葉の一つに「多様性」がありました。ここに参加されている皆様自身が多様なのだと感じ、非常に印象に残りました。また、「民間の力」という言葉も多く登場しました。行政だけでなく、民間の知見を取り入れることで今まで成し得なかった多様なコンテンツが生まれるのだろうと感じました。私たち設計者は、本日頂いた意見をしっかりと聞き取り、多様なコンテンツを最大限に活かすための施設づくりを今後検討していきます。

三浦慎建築設計室 三浦

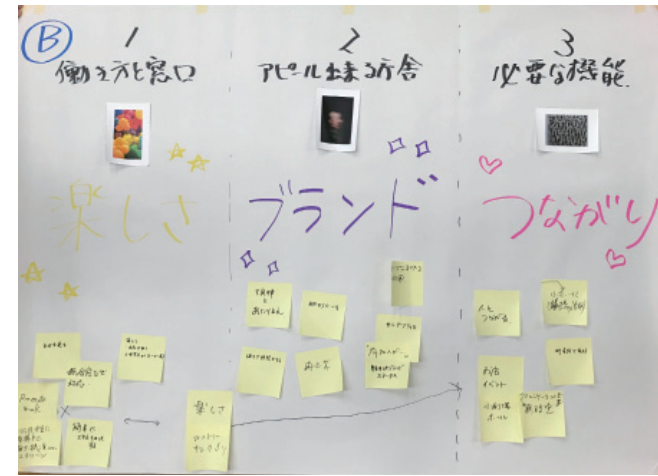
様々な意見を頂き、また、わかりやすく纏めて頂いたことに感謝するとともに、驚いていきます。私たち設計者は、この施設がまち全体につながっていく起点として「もりの縁側」を計画しました。皆様のご意見を聞いている中で、この空間には解決していかなければならない多くの課題があることに気が付くことができました。また、皆様の前向きなアイデアがたくさん集まったことに勇気づけられました。中には厳しい意見もありましたが、すべてに耳を傾け設計に反映していきたいと考えています。

第2回「まちの縁側」の活用について考えよう

A グループ



B グループ



C グループ



ワークショップの様子



未来の働き方と窓口を考えよう

DX 活用 ⇒ 誰一人見捨てない 柔軟な 笑顔

- 子どもによるまちづくり 子供町長
- DX を活用
- 誰 1 人見捨てない窓口
- 笑顔
- 柔軟な対応を
- お役所的ではなく、相手の身になって
- 多様性重視 (職員・来庁者・遊びに来た人)
- 窓口の一本化

楽しさ

- + DX 化が進み、役場の機能が簡素化されていって、人のつながりが薄くなっていくのではないかとということで、違った目的で役場に来てもらう。お店やイベントがあると良い
- 自由な発言
- お茶がある (喫茶店 or コーヒー屋)
- 総合窓口で対応
- Remote Work
- 公民館に常時接続された PC
- 簡素化できるものはする
- 楽しさ
- フレンドリー
- キヨリカン

+ 縁側は、内でもない外でもない色々な人がその場にいいような所という意味で、すべての人の共有の場所で情報の発信もするし、受信もできる所として、すぐリラックスできてゆったりできる所

- 人らしい働き方
- テレワーク
- 働き方改革
- 行かなくていい
- セキュリティの問題
- ハンモックで新発想
- 縁側はすべての人の共有の場所 (多様性・多言語) 情報も
- 安心安全
- 声をあげたらかけつけてくれるスーパーマン的な
- 相談は対面が大事

世界にアピールできる軽井沢らしい庁舎を考えよう

別荘のようなイメージの庁舎 = 非日常が過ごせる庁舎

- + 常に "笑顔" が軽井沢らしい庁舎
- 馬道がつながっている
- 子供食堂
- 学習室 etc
- 縁側教室
- 暮らしの場
- 笑顔
- アート、パフォーマンス、クイズ、クラブ (disco teck)
- 世界一集まる場所
- 良い体験 (まちの縁側) をした事を他へ発信する
- 軽井沢らしいもの一つだけ協賛
- 別荘地のイメージ
- 文化的なイメージ

ブランド

- + ブランドが誇りになる。外から来た人は軽井沢をブランドだという目線で見てくる。軽井沢にいる人はそういう人と共存して生きていくところが町民性の良いところだと思う
- 規律とあたりまえ
- 自然をアピール
- 誰もが休憩できる
- 再エネ
- オープンスペースの利用
- セレブリティな
- 「有名人が...」
- 軽井沢ブランド ステータス

+ 庁舎に行かなくてもいいようになってくると、他のきっかけでこれる場所が必要。声を挙げたらかけつけてくれるスーパーマン的な対応での対応ができる価値のある人、何の支援があるのかわからないので解決できる人がいる場所

- 多様な方が働いているのでチームで相談にのってくれるピアサポートしてもらえる
- 来庁者 いつも多様な方が一緒にいることが普通の庁舎
- 声を上げたら知恵 (支援内容など) をくれ、相談者がエンパワメントでき自分で解決できる
- 人も自然も常に美しい
- 自然と共存した再生可能エネルギー
- 地球環境の危機を考える場所に
- ゴミ捨て、清掃は利用した方やグループができるだけやる

必要な機能を考えよう

シンプル&低コスト 笑顔

- + 職員の方も町民も皆さん "笑顔" で集えるような機能
- 環境音楽
- 建設費を安く
- 民間のノウハウとリソース
- シンプルな機能
- 便利すぎず、欲張りすぎず
- あたたかい場所 (人・温度)
- 柔軟な対応が出来る人材・設備
- 24 h 使える窓口
- ゼロエネルギー
- 若いをサポートする
- ジジ×ババ サポート団

つながり

- + つながりが生まれる場になると良い
- そこに来れば自然とつながってコミュニティができていくのが理想
- 人とつながる
- 小ホール (議場活用)
- 町全体で考える
- お店
- イベント
- 小劇場・ホール
- コミュニケーション
- 調理室

- 24 時間いつでも過ごせる
- どんなカタチでも どんな色でも良く透き通って近寄りたくなる
- IT の苦手な方も IT を使えるような物による環境作りや使い方のサポート
- 少人数でも集まり、ディスカッションできるように
- 発信基地
- みんなでディスカッション
- オープンでワクワク
- 世界の異文化や人種の方がつどいあえるように

+ : グループ発表で補足説明されていた内容・コメント等

講師のお話 テーマ：軽井沢の未来

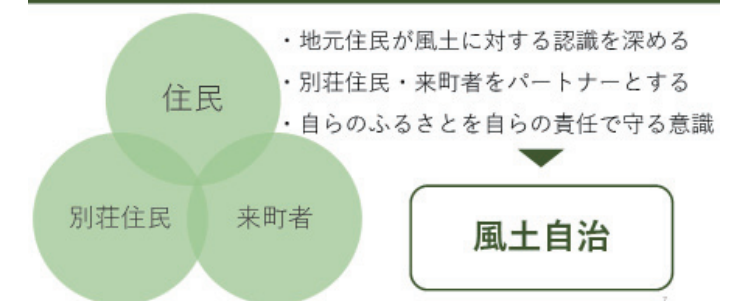
講師：総合政策課 都市デザイン室 小須田愛美 主任

軽井沢グランドデザイン (50 年・100 年先の軽井沢)、これからの軽井沢に必要なこと、新しい庁舎の役割についてお話を頂きました。

軽井沢グランドデザインとは



これからの軽井沢に必要なこと | 風土自治



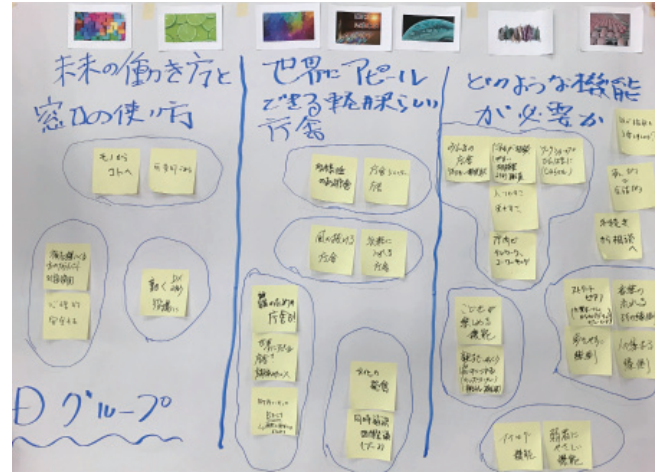
新しい庁舎の役割 | まちの縁側

- 時代の変化を捉え、これまで軽井沢の伝統、文化を見直し、新しい文化を作り上げていきましょう
- 新しい庁舎にどのような機能があると良いか一緒に考えましょう

風土自治 = 住民と行政が共に考える場

第2回「まちの縁側」の活用について考えよう

D グループ



未来の働き方と窓口を考えよう

+ 今後、年々あり方が変わっていくことが考えられるので、窓口に関しては可変的であることが重要

- ・モノからコトへ
- ・可変的である
- ・福祉課にくる方のプライベートを守る空間
- ・心理的安全性
- ・動く DX よりそう 役場に

D

世界にアピールできる軽井沢らしい庁舎を考えよう

+ 『世界にアピールできる軽井沢らしい庁舎』というフレーズに違和感を感じる方がいた。軽井沢らしさに色々な考えを持つ人がいる中で、だれのための庁舎なのか？世界にアピールできる庁舎とは何なのか？などワード自体がうまく入ってこない、町民にとってのベストが一番大事なんじゃないかという意見があった

- ・多様性のある庁舎
- ・庁舎らしくない庁舎
- ・風の抜ける庁舎
- ・気軽に入れる庁舎
- ・誰のための庁舎か？
- ・世界にアピールできる庁舎？京都市みたい×
- ・町民にとって BEST ⇒自然と評判は伝わる
- ・文化の発信
- ・同時通訳国際会議（ブース）

D

必要な機能を考えよう

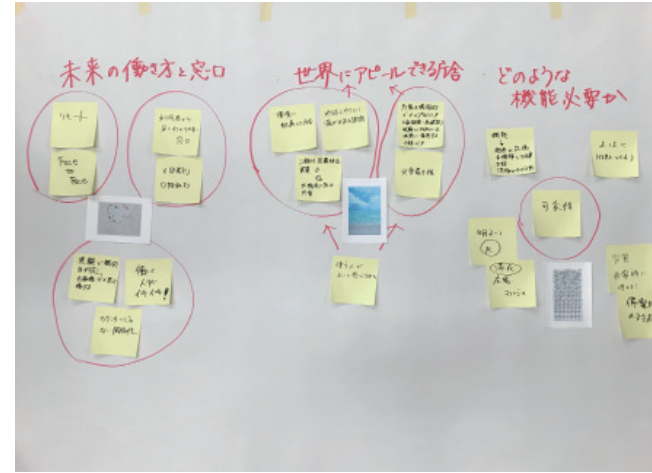
+ 庁舎である必要がない新しい部分で、いろいろな使い方ができる新しい庁舎になると良い

- ・みんなの庁舎 休日も一部開放
- ・だれもが相談しやすい 相談室 よりそう職員
- ・ワークショップひんばんに（Cafe も）
- ・入りやすさ 来やすさ
- ・庁舎でテレワーク、コワーキング
- ・子どもが楽しめる機能
- ・親子でゆっくり窓口にこれる（キッズコーナー・親子トイレ・授乳室）
- ・ストリートピアノ（大賀ホールからのパブリックビューイング）
- ・音楽の流れるまちの縁側
- ・歩きやすい縁側
- ・人の集まる縁側
- ・アナログ機能
- ・弱者にやさしい機能
- ・誰が機能を必要とするのか？
- ・事ム的⇒会話的
- ・手続きから相談へ

D

+ : グループ発表で補足説明されていた内容・コメント等

E グループ



+ 時代の変化によってリモートが増えてきて人と人が接する機会がなくなっている。そういったところを大事に働いていかなければいけない。窓口の使い方は、利用する方がどこに行ったら良いかわやすい窓口にした方が良い。一番大切なのは働く人が生き生きとして親切な対応ができることが未来の働き方として大切

- ・リモート
- ・Face to Face
- ・利用者から見て分かりやすい窓口
- ・×部署別 ○機能別
- ・笑顔で親切な対応 お客様だと思って接する
- ・働く人がイキイキ！
- ・カウンターじゃない関係性

E

+ 世界にアピールできる庁舎というフレーズに疑問を持った方がいた。デザインよりは、機能性や環境に配慮した庁舎、シンプルな庁舎、必要最低限の機能が備わっている庁舎といった、使う人が最終的に良いと思える庁舎が結果として世界にアピールできる庁舎になる

- ・環境に配慮した庁舎
- ・地球にやさしい温かみのある建物
- ・二酸化炭素排出実質0 ⇒太陽光パネル庁舎
- ・庁舎は機能的でシンプルに！（低価格・高機能）
- ・世界にアピールは世界に通用する人材で！
- ・必要最小限
- ・使う人が良いと感じられる

E

+ 可変性のあるものとして、一つの機能だけではなく、様々なものができる機能が必要

- ・機能⇒相手の立場を理解して仕事をする（究極のサービス業）
- ・よはく（住民もつくる）
- ・可変性
- ・明るい光
- ・滞在
- ・広場
- ・マルシェ
- ・災害 非常時に使える！
- ・停電時の対応

E

ワークショップの様子



設計者感想

山下設計 窪田

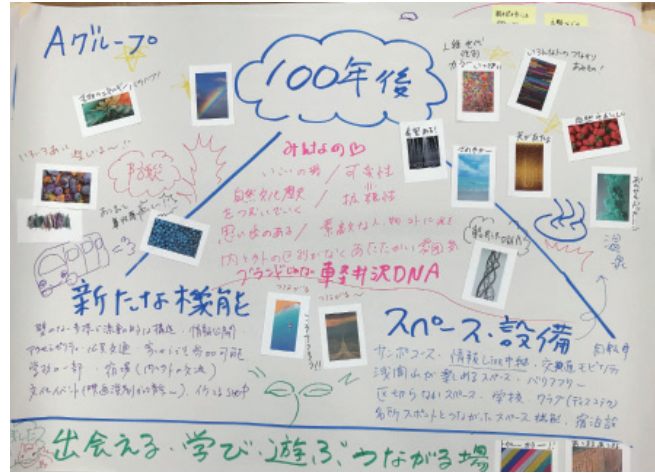
今回のワークショップは、多様な意見の中で、人とは違った意見や少数の意見に対し、どのようにくみ取り、まとめ上げていくか、皆様非常に苦勞されている印象を受けました。あるグループは個々の意見を建設的に整理し、的を絞ったら「笑顔」が残ったとおっしゃっていて、最後に残る言葉はシンプルなものなのだと感じました。私自身も、最近のデジタル化の進展に伴い Face to Face の機会が減り、改めて「笑顔」といった感情をリアルに感じ取れる対面の大切さを知る機会がありました。今回のワークショップも貴重な意見が集まったことに感謝いたします。

三浦慎建築設計室 三浦

本日のご意見で多かったのが「最後は人だ！笑顔だ！」でした。そして、「ブランドとしての軽井沢と意味のないブランドとしての軽井沢」という逆説同士がぶつかり合って議論されているグループがあり印象に残っています。ブランドではなく軽井沢の本質を見極めるべきといった意見も印象に残っています。新庁舎・複合施設のプロポーザルに参加された設計事務所で、世界的な建築家でなかったのは私たちだけでした（笑）ただ、器でなく中身をとらえ謙虚に設計することで、この施設に必要な本質を見極めていきたいと考えています。

第3回 新しく作る複合施設の姿を考えよう

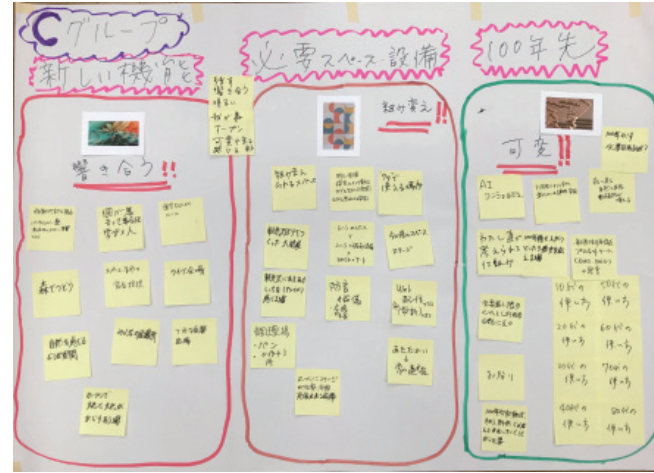
A グループ



B グループ



C グループ



ワークショップの様子



どのような機能が必要か：「残したい機能」の相乗効果を高める「新たな機能」を考えよう

+ 100年後は山の頂上にあるイメージ。山の頂上に至る際には防災もあるという話をした。出会う・学び・遊ぶ・つながる場を残したい。色々なカラフルな人達が集まるイメージ

新たな機能

- 壁のない多様で流動的な構造
- 文化イベント (映画・演劇・ダンス・音楽)
- 情報公開
- イケてる SHOP
- アクセシビリティ
- いろいろなあって楽しいよ～！！
- 公共交通
- あつまって収穫 おいしい！！
- 家からでも参加可能
- 防災
- 学校の一部
- 学校の一部
- 宿場 (内と外の交流)

+ 前提条件として、現下の経済情勢では絶対に延期すべき。この町で複合施設を運営できると思えない。100年先の仕組み説明が非常に情緒的で答えにくかったという意見があった。

立ち寄りやすい場所

- 仲間と憩える場所の設置
- 来訪者も遊びにこれるスペース
- 来たらフラッと立ちよれる場
- 観光案内所みたいな場をつくる
- しゃれたカフェ
- 図書室ほしい！（大きい）
- 水辺の造成

+ 残していく、響き合う、我が事となる、オープン、可変性、感じるというキーワードが出た

響き合う！！

- 移動可能な備品
- 自然を感じるような空間
- (パーティション・畳・スクリーン
- オープンで文化と文化がまじりあう
- プロジェクター・音響など)
- 十分な音響設備
- 個が集まって集合体
- みんなの居場所
- 学び×人
- 残す
- 運営するためのルール
- 響き合う・明るい
- 森でつどう
- 我が事・オープン
- スペース活用の資金提供
- 可変性⇒戻る
- ライブ会場
- 感じる

どのようなスペースが必要か：「残したい機能」「新たな機能」に必要なスペース・設備を考えよう

必要な機能スペース・設備

- サンボコース
- 情報 Live 中継
- 交通モビリティ 自転車
- 浅間山が楽しめるスペース
- バリアフリー
- 区切らないスペース
- 学校
- クラブ (ディスタック)
- 名所スポットとつながったスペース・機能
- 宿泊施設
- 温泉 おんせんドッカーン

世代

- 子供たちの声をきける場
- まちづくり
- コミュニティスクール + 世代間交流スペース
- ボランティアの拠点
- コワーキングスペース + 学習スペース
- 別荘の方・若者などが集うサロン

その他

イベント

- いつでもイベントができよう
- 屋外集会場 屋根付き 電源設備 音響設備 キャパ 300人
- 防音
- イベントスペース
- 広い土間
- 多目的運動場の再設

組み変え！！

- 組み変えられるスペース
- タダで使える場所
- 明るい部屋 採光によって変わるカゲを活かした空間
- むだと思われる空間
- 軽井沢彫りでつくった大部屋
- 今の倍のスペース ステージ
- 3～5 のスペース× 2～3 の設備機能×それぞれのアート
- 防音設備
- 合唱
- 楽器
- ホールにステージが必要 外部発信出来る設備
- Web 配信できる 常に (最新) にする
- 軽井沢にある、あったしつちを (アシとか) 感じる場所
- 調理場 パンが作れる所
- あたたかい⇒常に適温

どのような仕組みが必要か考えよう：100年先もみんなに愛され続ける仕組みを考えよう

ブランドじゃない軽井沢 DNA

- みんなのいこいの場
- 可変性 = 拡張性
- 自然文化歴史をつむいでいく
- 思い出のある
- 素敵な人・物・コトに光を
- 内と外の区別がなくあたたかい雰囲気
- 人種・世代・カラーいっぱい
- いろんな人のつながり あみもの！
- 自然 = おいしい
- 光があたる
- さわやか～
- 希望ある！

人の声を集める！

- 住民による運営組織
- 常に利用者の声を集めて対応できる柔軟さ
- 全く利用しない人の声も集める工夫

観光・環境

- 森が目前にあるような感じ！
- エコツーリズムをやる！←公民館が出発地
- 施設の周りに観光できる場をつくる
- ちよつと観光地みたいにする！

- 現下の経済情勢では絶対に延期すべき！！ (コロナ・原油高・超円安・素材インフレ・ウクライナ戦争)
- この町で複合施設経営できると思えない

+ 可変してまた森に戻っていかもしれないし、浅間山が噴火して場所が移動するかもしれない。まずは、我が事として考えられることにしていけると良い

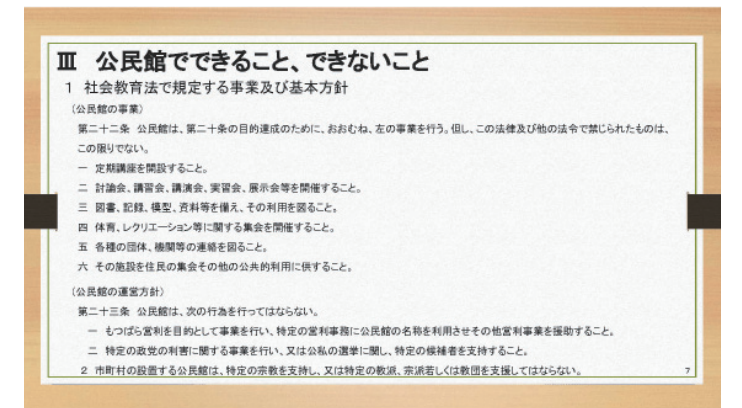
可変！！

- AI コンシェルジュ
- お祭り
- 100年残す必要はあるのか？
- 利用者によって変化・進化している建物・空間
- 森に戻る自然と共存 動植物が増える
- わたし達が考えられる仕組み
- 100年後も人がつどったり、歴史を伝える場
- 年代別利用促進プロジェクトチーム (DAO・PAID) の運営
- 10/20/30/40/50/60/70/80 代の使い方
- 必要最小限のルールとし、利用者目線に立つ
- 100年のこすのであれば、きのう・形がじゆうなんにかわっていくことが必要

講師のお話 テーマ：中央公民館の機能と役割を知ろう

講師：軽井沢町中央公民館 土屋悦雄 館長

社会教育法に基づく公民館とは（役割や公民館に置かなければならない施設（部屋）について）、公民館でできること、できないことについてお話をして頂きました。



参加者のお話 テーマ：軽井沢の歴史からみた新庁舎

風越学園 8年生 島崎晃太郎 さん

島崎さんは普段、軽井沢の歴史（中世の）について研究をされていると、第1回ワークショップにご参加頂いた後、『歴史の観点からみた新庁舎の重要性』について参加者、建設に関わる皆様に伝えたいというお申し出を頂き、プレゼンテーションをして頂きました。

今日伝えたいこと

役場の立つ地にはたくさんの歴史が刻まれている！

そこで先人たちは何を思い何を感じたか。

中山道が移動して沓掛宿が役場周辺にできるようになった。

もともとは人が入っていない地だったけど周りの文化もはいつてきたのでは？

第3回 新しく作る複合施設の姿を考えよう

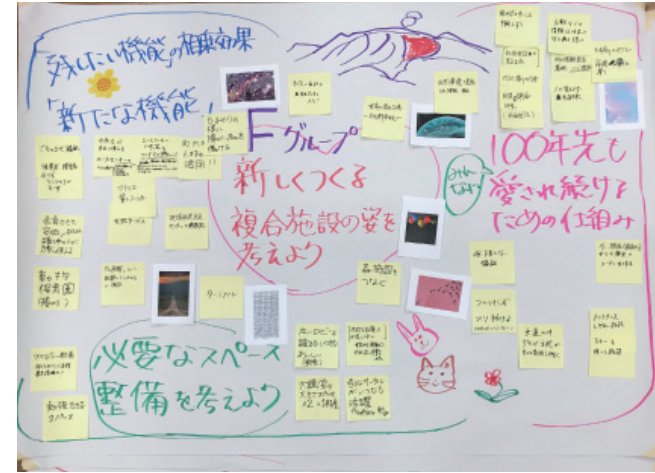
Dグループ



Eグループ



Fグループ



ワークショップの様子



どのような機能が必要か：「残したい機能」の相乗効果を高める「新たな機能」を考えよう

+ 100年先の持続可能を考えると多機能的で多様な人が使いやすいというキーワードが出た

多機能

- ・様々な人が自由に入出りできる ・多様な人々が集まる (子ども・高齢者・別荘の方・観光客・ワーケーションの方...)
- ・相談しやすい 同じ庁舎に保健福祉課 隣に病院 病院との連携
- ・毎月開催の「情報市庭」の会場に
- ・コンビニ ・子どもとの食事エリア ・カフェ
- ・ワーケーションスペース等々 ・防音設備
- ・本日、今後の行事が分かる SNS デジタル表示板

持続可能なコミュニケーションの場

- ・オープンスペース
- ・大きなスペース
- ・小さなスペース
- ・情報のプラットフォーム
- ・可動式のイス
- ・避難所スペースにも使う

+ 物理的な循環バスや高速バスのターミナルや、人が集まったり、つどつたりするターミナル。ユース・青年世代がつかえる児童館のような学習の場があると良い

- ・ごちゃまぜ福祉 健康者・障害者分けずにワンフロアですごす
- ・中高生が自由に使えるユースセンターのような場所
- ・ユースワーカーに予算をつけてください！（場があることも大事ですが、来る子とコミュニケーションする人、一緒につくりつづける人が必要です）
- ・ひまわりの様に障がい者の方働ける場所
- ・町内外の人材の活用！！・アトリエ ・貸ロッカー ・出張サービス
- ・動物保育園（預かり）・食育できて安価
- ・子育て中の人気が楽に使える ・地域住民交流センターの機能
- ・「公民館」という制限にとらわれない機能

どのようなスペースが必要か：「残したい機能」「新たな機能」に必要なスペース・設備を考えよう

多様な人々が親しみやすい

- ・使いやすいスペース割
- ・外部から多様な人が気軽に出入りできるスペース
- ・明るく広いオープンスペース
- ・バリアフリーで安全な場所
- ・浅間山が美しく見えるスペース

可動式のホール

- ・50人程度が集まり会話が生まれる拠点
- ・多目的ホール（ダンス・演劇・音楽・イベント・パーティー）
- ・数百人収容できる可動式ホール
- ・スタジオ ・フリースペース（制限のない）

+ 学習や勉強をするところも取り入れたい。音楽をするスペースも必要 PC ルーム等のデジタル系も必要。

- ・学習教室を残す
- ・せりあがりステージ
- ・各教室ごとの専門的な設備を
- ・ネット配信の設備
- ・PC ルーム
- ・調理室（より充実した）
- ・デジタルチラシ
- ・什器 そば打ち（数十人分の）

- ・ターミナル
- ・（大きな）広場・展示場 間仕切りで各種展示場に！
- ・勉強できるスペース
- ・広いロビーでいつでも誰でもおいしい（飲食）
- ・特殊な設備を用意しておく 電気ガマ、電動ノコ、大きく広い作用台 etc.
- ・大講堂の大きさ・スペース×2 = 1部屋
- ・いろいろなサークルがいつでも活躍
- ・文化芸術の発信
- ・各施設をつなぐ

+ 分館に任せられることは分館に任せる

どのような仕組みが必要か考えよう：100年先もみんなに愛され続ける仕組みを考えよう

住民・利用者主体の運営

- ・利用者団体の輪番制による自主運営
- ・NPO 法人による町民も参加する団体運営
- ・住民や利用団体による自主的な運営や管理
- ・（仮称）住民交流センター

+ 軽井沢町のボランティアセンター 45 団体 1000 人の意見を集約したもの一つに（仮称）住民交流センターとして、50人程度が自由に入出りして、いろいろな人の出会いがあるスペースを作って欲しいという意見があった

+ 行った時に覚えているもの、インパクトがあるものが良い ボランティア活動をするでもっとみんなで楽しく関われると思う

- ・いつでも情報がアップデートされている仕組み
- ・ボランティア制度も充実
- ・いつ来ても楽しめるイベント（写真コンテスト）
- ・無料制度ではなく有料制度に！！ スペースを借りる時
- ・特徴のある建物に！！

+ 不確かな時代だから、今 100 年後はわからないのでつくりきらない

- ・民間委託で駐在する人を！
- ・世界に見せる場 ～文化都市ゆえ～
- ・自然環境を意識した建物・周辺 ・軽井沢の中心を中軽とする
- ・利用状況の見える化 ・ガラス張りの庁舎
- ・町民が評価しやすい（利用状況）
- ・広報などの情報は住民に行き渡る様に
- ・町の情報発信基地 ハブ機能 ・人が集えやすい交通手段
- ・交通の件、デマンド方式がもっと利用しやすく
- ・お年寄りにやさしい 病院の帰りに寄る ・垣根のない福祉
- ・つくりきらず、つくり続ける（50%しかつづらない）
- ・今、現在（過去）からの歴史のコーナをつくる
- ・メンテナンスしやすい施設 ・キレイを保てる施設

+ : グループ発表で補足説明されていた内容・コメント等



設計者感想

山下設計 窪田

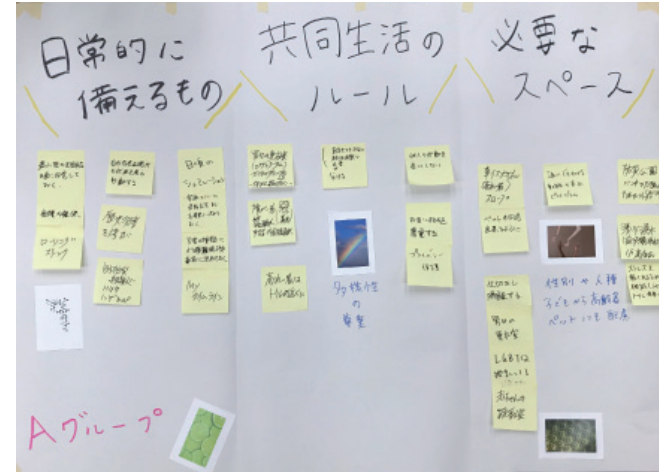
今回は急遽、風越学園の島崎さんに軽井沢の歴史について話していただきました。こういったアドリブのあるワークショップも良いなと感じております。今回のテーマが「100年後」ということで、先の見えない世の中を考えることは難しかったと思いますが、100年前の人たちも同じような状況の中で軽井沢の未来を見据えながら街を築いてこられたと思い、大切なテーマになると考え取り組んでいただきました。その中で「軽井沢はブランドでなく、今まで培ってきたDNAを見直すべき」といったこの先の大事なテーマになる貴重な意見がありました。軽井沢にもっと多様な方々は集まってきて、本当の豊かさが生まれる街を創っていく、そのためのDNAであると感じました。私たち設計者は、そのための起点となる施設づくりに取り組みます。

三浦慎建築設計室 三浦

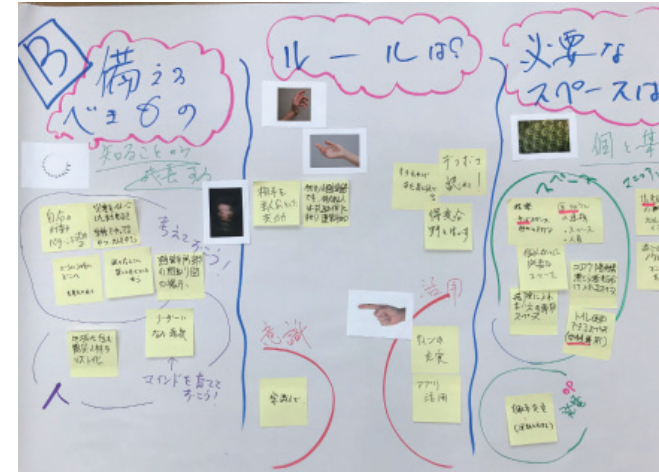
非常にたくさんのキーワードが挙げられていて楽しく拝見させていただきました。また、新庁舎・複合施設に対する皆様の熱意や期待を強く感じました。「家と学校」「家と職場」など普段の生活のパターンから一歩出て、「サードプレイス」として生活の幅を広げる場所として、世代を超えて使えると良いという意見も印象に残りました。本日の議論をしっかりと受け止めて、また引き続き議論を続けていきたいと思っております。

第4回 避難拠点としての複合施設について考えよう

A グループ



B グループ



ワークショップの様子



災害時の行動とは：日常的に備えるべきもの・学習すべきことを考えよう

+ 自分・家族・近所等、なにごとにも事前にシミュレーションして準備することが大事

- ・ 最小限の生活用品を常に用意しておく
- ・ 食糧の確保
- ・ ローリングストック
- ・ 自分の居場所の状況を考え行動する
- ・ 歴史災害を学ぶ
- ・ 自主防災組織で HUG・ にげ MAP
- ・ 日頃のシミュレーション
- ・ 家族のルール
- ・ 連絡方法などを事前に決めておく
- ・ 災害の種類により避難場所を事前に決めておく
- ・ My タイムライン

+ 災害時をイメージしたまち歩きを大人もやろう。家族単位やご近所単位でやると地域の面白い発見ができる

知ることから成長する ～考えておこう！～

- ・ 自分の行動パターンを決める
- ・ 災害をイメージしたまちあるき
- ・ 学校でやってるやつ 大人もやろう
- ・ どういう時にどこへ を考えておく
- ・ 頭の片スミに置いておくところから
- ・ 避難所空間の間取り図の掲示

人 ～マインドを育てておこう！～

- ・ 地域に住む防災人材のリスト化
- ・ リーダーになる勇氣

災害発生時のルール：避難所で共同生活をするためのルールを考えよう

多様性の尊重

- ・ 男女の更衣室 (ピクトグラム)
- ・ 女性の洗たく物 ～性犯罪を防ぐ～
- ・ 障がい者 (ベスト着用)
- ・ 手話 外国語通訳
- ・ 高れい者はトイレの近くに
- ・ 自分たちでできること、助けや配慮が必要 ⇒ 分ける
- ・ 他人の行動を気にしない
- ・ お互い相手を尊重する
- ・ プライバシー保護

+ 避難所に来るときは避難者意識で来るが、時間の経過とともに五体満足で動ける方もふんぞり返るのではなく、後から来る弱い方に共助の考え方で手を差し伸べ、運営者側に回るような意識をルール化できると良い

意識

- ・ 常識人で

活用

- ・ サインの充実
- ・ アプリ活用

相手

- ・ 相手を主人公とした共助
- ・ 初めは避難者でも、体力ある人は共助側にまわり運営参加
- ・ デコボコ認めて！
- ・ すきあれば手を差し延べる
- ・ 得意分野を生かす

どのような機能とスペースが必要か：避難拠点として必要機能・スペース を考えよう

性別や人種、子どもから高齢者、ペットにも配慮

- ・ 車いす対応 (高れい者) スロープ
- ・ ペットも同居出来るように
- ・ 仕切りをし隔離する
- ・ 男女の更衣室
- ・ LGBTQ 授乳しているお母さん 赤ちゃんの授乳室
- ・ 誰にでもわかる動線や表示ピクトグラム
- ・ ストレスを軽くするための機能 (シャワー、トイレ、食事、ペットスペース)
- ・ 防災公園 ベンチ⇒たき出し口 (カバー付)、マンホール⇒トイレ
- ・ 湯川浸水 (前沢橋流れた) 1F 高床式

+ 個と集団として整理をした

スペース

- ・ 娯楽・キッズスペース
- ・ 遊びのアイデア
- ・ 個人として必要なスペース
- ・ 医療との連携 (スペース・人材)
- ・ 病院に入れない方の専用スペース
- ・ トイレ使用できるスペース (女性専用)
- ・ コロナ陽性者・濃こう者を区分して入れるスペース

発電

- ・ 自転車発電 (運動にもなる)

マニュアル

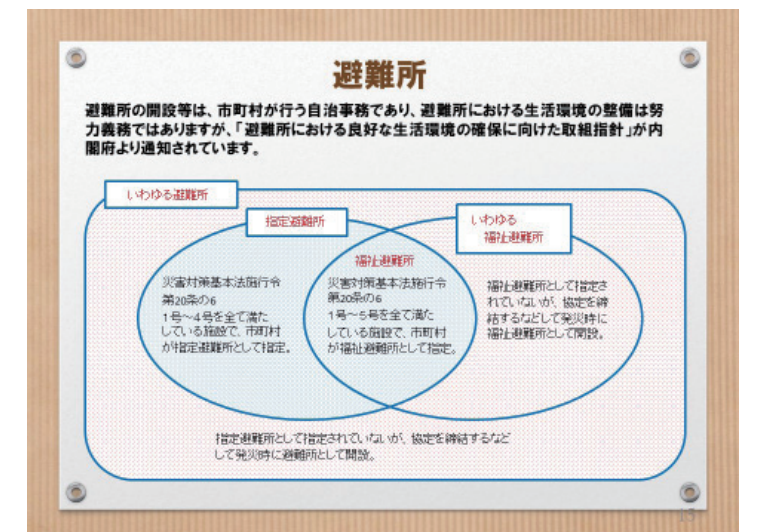
- ・ 情報の提供方法のくふう
- ・ 過ごし方のノウハウ、マニュアルを書く

+ : グループ発表で補足説明されていた内容・コメント等

講師のお話 テーマ：軽井沢で起こり得る災害について

講師：総務課 防災係 行田竜一 係長

軽井沢で起こり得る災害、その災害が起こったとき、複合施設はどのような役割を果たすのか、どのような機能が求められるのかについてお話をして頂きました。



第4回 避難拠点としての複合施設について考えよう

Cグループ



Dグループ



ワークショップの様子



災害時の行動とは：日常的に備えるべきもの・学習すべきことを考えよう

+あたりまえと思わないことが一番重要。あたり前とってしまうと対応できなくなる

ハザード

- ・避難場所・避難所までの経路の確認
- ・避難経路の確認・家族で避難のしかたの共有をする
- ・災害の程度に応じた避難所の場所、行き方の確認

学習

- ・家にいないといけなくなった時の事
- ・防災・減災の知識
- ・マイタイムラインの作成
- ・あたり前と思わないこと

備蓄

- ・携帯ラジオ
- ・モバイルバッテリー・非常用電気
- ・充電器を用意
- ・ビニール袋、ごみ袋
- ・日常生活備品の活用
- ・衛生用品
- ・ヘルメット・食料、飲料
- ・ねぶくろ・医りよう品
- ・けいたいガスコンロ

+今があって、備えは近々やること、ルールと機能は災害発生時に機能するものとして整理した

学ぶ

- ・野外生活のスキル
- ・防災運動会←イベント
- ・ほうしゃのうを学ぶ
- ・洪水について学ぶ
- ・危険エリア巡り

設備

- ・個々にソーラーバッテリーの確保をする
- ・ソーラーパネル
- ・ソーラー調整器
- ・ラジオ（個々で所有）
- ・コミュニティ創り
- ・人材の掘り起こし

災害発生時のルール：避難所で共同生活するためのルールを考えよう

思いやり

- ・人材活用し、勉強会
- ・マイナスな事をできるだけ言わない！
- ・明るく過ごす・笑顔を大事にする！
- ・大きい音を出さない
- ・みんなの事を考える
- ・ムダに争わない！
- ・「共助」を意識する！・助け合い
- ・障がい者への対応
- ・近隣の安否確認方法・体制

プライベート

- ・プライバシーの遵守
- ・プライベートスペースをわける
- ・一人の空間を大切に
- ・動線トイレや食事（配給）

運営・情報

- ・情報発信と受信
- ・運営体制づくり
- ・車中泊者への情報

ルール

- ・住み分けを明確にする
- ・おたがいで助け合う
- ・生活のスタイルを確保する
- ・平等・公平
- ・役割分担、当番制
- ・リーダーを置く

どのような機能とスペースが必要か：避難拠点として必要機能・スペースを考えよう

居場所

- ・高齢者の居場所
- ・ペットの居場所
- ・ゆったりと寝ることができるスペース

設備

- ・炊き出し機能
- ・温かい食事
- ・排泄物の保存場所 におい対策
- ・多数のトイレ

備蓄（避難所）

- ・医りよう品のびちく
- ・食料、飲料の保管スペース
- ・プライベート空間、水回り、キッズルーム、ベッドの確保
- ・防寒服、布団、かい中電灯をたくさん取っておく

機能

- ・けがをした人に1人のこらずいりようがいきとどく
- ・不安にならないような雰囲気
- ・前向きに次を考えられる場づくり
- ・こころのケアがとれる相談室
- ・水場、火の使える場
- ・川からの水、井戸からの水
- ・アナログ機能をおくこと
- ・分館、各地区とのれんけい（ZOOMでつなぐとく？）
- ・情報網を重点的に
- ・ファミリーテントを住民分完備

+：グループ発表で補足説明されていた内容・コメント等



設計者感想

山下設計 窪田

今回のテーマは「防災」ということで、皆様にとって身近で、また具体的なテーマだったこともあり、現実的なご意見が集まったと思います。また、グループごとにしっかりカテゴリ化され、非常にまとまりのあるワークショップだったと感じています。軽井沢には「浅間山噴火」といった個々の建物では防ぎようのない固有の災害リスクを持っています。そのためにも「自助」「共助」「公助」といった普段からの防災意識の構築が大切なのだと感じています。そういったことが今回のワークショップを通じて深く議論できたことに感謝いたします。

三浦慎建築設計室 三浦

今回、ワークショップの中で講師の方々による「軽井沢の植物」や「軽井沢で起こり得る災害」のお話をお聞きし、軽井沢には固有の災害による危険性があることについて改めて気づかされました。また、皆様のご意見をお聞きする中で、設計に取り込んでいくべき内容もたくさんあり、貴重なご意見を頂いたことに感謝をしています。4回のワークショップを通して、「100年後ここは森に返って何もなくなっているかもしれないが、すごく深い歴史のある森になって良い」という意見も非常に印象に残るものでした。私は、軽井沢は素晴らしい人材の宝庫だということに感化され、プロポーザルに参加させて頂きました。設計チーム・町の職員の方とも良いチームで計画を進めておりますが、住民の皆さんを含めオール軽井沢で新庁舎・複合施設の計画を進めていければと思います。